

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

赤とんぼ飛び交ふ中に恩師の碑

児玉 典子

長々とすべり台ある花野かな

瀬戸内 紀子

蜻蛉の行き交ふ遊具古りしかな

西村 セツ

大陽俳句会

土塀背にしだれ溢るる実むらさき

岩重 みどり

水澄みし川辺心の澱も消ゆ

福村 よう子

赤蜻蛉吾に寄りては離れては

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

明暗は水来る田んぼ来ぬ田んぼ

負け犬のやうにあぜ道を行く

泊 康

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

東雲にピタリと止むはカナカナぞ
やつらのセンサー人知届かず

大森 巳喜生

母の日もせぬまま逝きし母なれば
命日に供ふ一輪のばら

草野 ミツ子

大陽短歌会

見え見えの田舎芝居の終演の
ごとく決まりし総理の候補

米澤 正敬

過ぐる日を「早い早い」と一人言
稲田色づき台風いらぬ

安藤 フヂ子

一瞬の遅れは己の頬を打つ
痛みを残し蚊は飛び去りぬ

西山 美代子

財部短歌会

嵐去り三密今年の誕生日
耐えて肅々くりの実みのる

永岡 冴子

桜木は早くも夏に葉を落とし
支度始むる花咲く季を

脇丸 洋子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

祖母ちゃんな 寝せたち孫が 起きつ来た

古川 一幹

豊作の 台風被害 ちんがらつ

浜田 一好

いつこめか 竹ん子んごつ 成長だひ孫

鈴木 一泉

お月さあ 爺ん頭と よか勝負じゃ

桐野 奈世

大陽薩摩狂句会

見舞め行こち コロナで駄目ち
気が焦つ

津留 群志

鳴いスマホ バッグ逆様め
全部出つ

小倉 りんりん

散れた家へ 友人が来つ言で
わけ焦つ

西山 美代子

二度寝しつ 約束時間じや
凄ぜ焦つ

境 すやすや